



KYOTO Technical Site

取材/文/竹中 延 撮影/三浦賢一



ヘアサロンに行くべし。そんな気持ちでちよんぶし。そんな気持ちでちよんぶし。



必ず一人対一人の接客がかなう。その点は、ともすればヘアサロンよりもフレンドリーかもしれない。オフィス街ながら、ビルの5Fには自然光も生まれ、サニーサイド・カフェの雰囲気も感じられる。内装設計は福岡「京橋」など、飲食店を多数手掛けるドゥー プランニングの作

もちろん二人以上で来店してもいい。カップルや家族にはソファ席もある。TOO MUCHとも思える大きなサイズの鏡所に配されたグリーンが目を



現在超注目目のレッド・ベリル、通称赤いエメラルドと呼ばれる



エルメジルド・ゼニアを筆頭にエンポリオ・アルマーニ、ジャンフランコ・フェレなどのスーツオーダーを併設。このジュエルにこの調あり、か

ジュエリストアの現状…。

それが当たり前だと思っていたものに、根幹的な疑問を投げられるとハッとする時がある。百貨店の貴金属店。立派な絨毯が敷きつめられ、ハイブリックスペースである以上、それは避けられない。「高価な買い物をする場所として、そのシチュエーションは適切か?」。例えばそんな疑問の事である。ここ一番のジュエリーを扱うことにした、その後の歩人が歩いていないとも限らない、とつぶやいた。

ショークースの上だけで行われる石のやり取りに、古い表現で恐縮だが、そこに「ヒゲ付き合わせ」という姿があるのかどうか。それらの疑問がこのジュエリストア、「fontana」(フオンターナ)のスタートだと聞いていい。

珍しい石の話…。

ジュエリストアにおける商品。それは石。そこで前述に似た疑問を一つ。ダイヤモンドとして透明で丸いのか? 透明でなくとも丸くなくてもいいんじゃないか? という疑問である。実際、黄色くて三角のダイヤもある。日本はダイヤ輸入量世界二位の国であるが、それと明確な根拠があるわけでもない。そもそも、ダイヤに固執する必要もない。

事前に思い描いて、心に決めた石があるとする。「色々見比べて、最終的にその石にたどり着くならいいんですけどね」。fontanaのスタッフはそう語る。

ファンシーダイヤ以外にもアレキサンドライト、ババラチア、パライバ…。聞き慣れた多量のコピーではその誕生秘話に心くすぐられる石の数々になる。宝石が好きで好きで始めたこの仕事。そのエピソードや色の違いを語るスタッフ達の、マニア並みの嬉しそうな顔。こう書くと偏狭なキャラクターを想像されてしまうかもしれないが無論そんなことはない。言葉にも立ち居振る舞いにもインテリジェンス漂って、断言してしまおう。彼女らの話を聞けばよほど固い決意を持っていても、その決意は揺らぐだろう。石の種類と知識は、並みではない。



意に沿う形で記された二層ずつの白い椅子。一対一の接客はここでなされる。カトラリーと花瓶は、「どこもこの造りのバーレストラン」の指紋

オーダーシステムについて…。

さて、石だけでは装飾品にはならない。枠が必要である。「石にこれだけだわってのに、枠が単調ではね」。ブランドの上塗りである。

オーダーに際しては、例えば子供が描いたようなイラストからでも完成させる。そう風情を上げた以上、失敗も作り直しもある。だが「重い物を持つと楕円形に変形して、その垂みで石が「コロコロ」と落ちてしまう。枠にはある程度目方があって方がいいんですよ」という事実を知っている以上、やらない訳にはいかない。それはジュエリー好きの本能に近い。

高い安いは相対的なものだが、ちなみにオーダーは20万円(プラス石の値段)から。修理に出した経験があまりの読者なら、1週間~10日はかかるのが相場とお思いがもしれないが、ケースや状態にもよるが多くの場合、それ以内で済むという。一旦預かって、修理を外注して…という煩雑な工程が必要のない、知識レベルを含めたスタッフのスキルがあるからである。中には「他店で1週間かかる」と言われて持ってこられるも



中央はカメレオンダイヤ、その石はファンシー・インテンス・パーブリッシュピンク、右端にファンシー・インテンス・イエロー・グリーン、左端ファンシー・ディープ・ピクパープル、右端がファンシー・ヴィヴィッド・オレンジッシュイエロー等、ファンシーカラーダイヤも豊富

そして、店の造り…。

「カフェのような内装です」。正直、職業上聞き慣れすぎたその言葉を半信半疑で訪ねたが、その言葉に嘘は全くなかった。男性同士ですら違和感はなく無いだろう。事実、メンズジュエリーも豊富である。衆目のショーケースの上で、機械的に商品と料金が行き交うだけの売り方を、ここでは接客とは呼ばない。この店の接客スペースは、隣の席の客とも、隣の席の客が見ている商品ともブランドになっっている。

「見に来てくださるだけでも本当に結構なんですよ。ホントにそう思っても、言葉にするところでも聞く感じになっちゃうんですけど」。

手厚い接客の性格上予約が必要だが、そう、美容室を思えばいい。堅苦しく、緊張するばかりが予約というシステムではないのだ。そんな居心地の良さがこの店にはある。店を出るときに初めて、「ああそうか、こゝ、店やったんや」と思えるよね…。



一度オーダーしたものは、「太った・瘦せた」が理由の場合リメイクは無料。チェーンが切れた場合、切れたチェーンを持ち込めば、これもリペアは無料。日くブランドがない分値頃ります(笑)。

六角通	六角通
堂町通	堂町通
橋本通	橋本通
橋小路通	橋小路通